

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第1回 松阪市社会教育委員会議
2. 開 催 日 時	令和5年7月6日(木) 午後2時00分～午後3時35分
3. 開 催 場 所	橋西地区市民センター 大会議室
4. 出席者氏名	(委 員) ◎山本哲司、太田浩司、岡田辰也、尾崎太河、垣本長生、阪井正弘、鈴木寛子、床呂さや子、刀根雅人、平岡令孝、福田哲也、本田節男、森本小百合、渡邊幸香 《◎委員長》 (事務局) 刀根局長、金谷局次長、尼子教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、池田生涯学習課長、赤塚生涯学習課松阪公民館担当監、小泉生涯学習課生涯学習担当監兼青少年センター所長事務取扱、小泉学校支援課長、御堂子ども支援研究センター所長、若山みえ松阪マラソン担当参事兼スポーツ課長、林スポーツ課中部台管理事務所長、橋本北部教育事務所長兼北部学校給食センター所長事務取扱、北川飯南飯高コミュニティ・スクール担当参事兼西部教育事務所長事務取扱、生涯学習係
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 生涯学習課 TEL 0598-53-4396 FAX 0598-26-8816 e-mail ikig.div@city.matsusaka.mie.jp

○協議事項・議事録  
別紙参照

## 令和5年度 第1回松阪市社会教育委員会 会議録（要旨）

○日時：令和5年7月6日(木) 14時00分～15時35分

○開催場所：橋西地区市民センター 大会議室

○議題

1. あいさつ
2. 自己紹介
3. 委員長、副委員長選任
4. 役員等の選出について
  - (1) 松阪市「小さな親切」運動推進本部役員の選出
  - (2) 松阪市放課後子どもプラン運営委員会委員の選出
5. 協議（報告）事項
  - (1) 令和5年度教育予算について
  - (2) 松阪市立小中学校の活性化について（教育総務課）
  - (3) 地域の教育力活用推進事業（コミュニティ・スクール）について（学校支援課）
  - (4) みえ松阪マラソン事業について（スポーツ課）
  - (5) 松阪公民館移転事業費について（生涯学習課）
6. その他

○出席者：山本委員長、平岡副委員長、太田委員、岡田委員、尾崎委員、垣本委員、阪井委員、鈴木委員、床呂委員、刀根委員、福田委員、本田委員、森本委員、渡邊委員

○欠席者：廣地委員

◆ 議事

(1) 令和5年度教育予算について

意見なし

(2) 松阪市立小中学校の活性化について（教育総務課）

委員 私の地元の香肌小学校も検討の対象の学校になっております。自己紹介の時に山村留学の話をさせていただきましたが、香肌小学校は地元の子はほとんどおらず他の地域から来た子ばかりで、アレルギーがあったり不登校になったりして、他では受け入れられなかった子たちが来てもらっていると聞きます。行政としては学校を統合していきたいのかもしれませんが、そのような困っている子たちを受け入れてくれる学校として一校だけでも残していてももらえないでしょうか。

事務局 委員がおっしゃられましたように、香肌小学校については山村留学ということ で年々子どもたちが増えているということは聞いております。ただ、おっしゃられたお気持ちもわかるのですが、議論の対象から除外するのではなく、地域の方々と議論をしたうえで、どのような方向性がいいのかというのを積み上げながら考えていきたいところでありますので、ご理解の程よろしく願いいたします。

(3) 地域の教育力活用推進事業（コミュニティ・スクール）について（学校支援課）

委員 市内の全小中学校に導入していくとのことですが、いま現在導入されているところで、例えば私の地域であれば中学校区に三つの小学校があるのですが、その小学校でコミュニティ・スクールに関わっている方が、中学校のコミュニティ・スクールにも関わっているのか、もしくは小学校は小学校、中学校は中学校と全く別であるのでしょうか。また、私の地域ではコミュニティ・スクールとほぼ同じ取り組みをすでに行っているのので、コミュニティ・スクールという形に変えていく必要はないのではないかとということもお聞きしたいです。

事務局 松阪市についてはコミュニティ・スクールにおいて小中学校の連携は不可欠であると考えております。一番初めに鎌田中学校を立ち上げたときには、その当時はそれぞれの学校に立ち上げるとなっていたので、中学校区の三つの小学校それぞれにコミュニティ・スクールが立ち上がりました。ただ、連携が必要不可欠で

あるということで、それぞれの協議会の代表の方が寄っていただき中学校区の部会で鎌田中学校区としてどのような子どもをとすることを広くとらえて話し合っていたいただきました。全国的にコミュニティ・スクールが増える中でやはり中学校区で一つの目標に立った取り組みが大事であると再確認され、国の制度自体が中学校区で一つの協議会を作ってもよいという風になってきたので、現在どちらのタイプも可能になっています。市内でも小学校と中学校あわせて9年間で一つの協議会を作っているところもありますし、別々というところもあります。ただ、校区の小学校の数が多いと難しいということや一つにすることのメリット・デメリットもありますので、自分のところの校区にあったベストは何かということをご協議いただきながら進めています。これまでコミュニティ・スクールを進めてくる中で上がったのは、やはり地域のコーディネーターさんや委員さんをしていただくときに、地域の中心となっている方であり小学校と中学校で取り合いになると困るので、小中学校9年間関わっていただけるというのが望ましく、その形がとれるのであれば、中学校区でという取り組みもしてもらっております。ですので、コミュニティ・スクールを立ち上げる際に、地域の方々と話し合いながら進めているところです。もう一点、これだけの取り組みがすでにできているということに関しまして、既存のいろいろな子どもを支えていただいている組織の方にもお話いただきながら、地域の目指す子ども像というのを再確認しながら、お互いがゴールを定めてやっていく、失敗しても失敗から学び、しっかりと協議していくことが大事であると考えております。すでに地域できているというのは、松阪市では多く聞かれますが、それだけ多くの方が地域に関わっていただいているということであり、コミュニティ・スクールを機会にさらに力を合わせていくということに転じていただければと思います。

委員 私自身小学校と中学校でコーディネーターをさせていただいておりますが、やはり小中学校9年間の連携は必要不可欠であり、目指す子ども像として15歳の春をこの地域でどのようにして迎えるかということ意識するのが重要であると考えます。同じ地域内のことなので問題も似通ってくるというところがあって、課長がおっしゃられたように小中学校9年間が重要であるという話が出ているということを紹介させていただきたいと思いました。また、コミュニティ・スクールが小学校で立ち上がる前に同じような話が出たのですが、決定的に違うなと思ったのが、学校運営協議会という場を立ち上げることによって、学校側の一年の目標を出していただき、そこに向かってきっちり話し合うことができるということです。国の制度だけあって、運営協議会が協議をする場所として設けられていることで研ぎ澄まされてくるというか、学校や地域、保護者が一緒に子どもたちにどのような力が必要か把握できるというのは大事な機会であると思いま

す。さらに、コミュニティ・スクールにしかない機能として地域が目指す子ども像について学校運営協議会と地域の方が考え話し合うということをするがあります。こういうことはコミュニティ・スクールがないとなかなかできないと思います。

#### (4) みえ松阪マラソン事業について（スポーツ課）

委員 今年もプロジェクションマッピングはされますか。

事務局 はい、今年も計画をしております、去年はランナーの方しか見られなかったのですが、今年はその前日に一般開放もする予定で考えております。

#### (5) 松阪公民館移転事業費について（生涯学習課）

委員 他の市町を見てみると公民館からコミュニティセンターに変えているところがありますが松阪市としてそのような考えはおありですか。

事務局 各地区公民館はコミュニティセンターに変わっていく予定ですが、松阪公民館・嬉野公民館・三雲公民館・飯高公民館・飯南公民館は公民館として残していく方向で考えております。

#### ◆その他

委員 松阪市は地区市民センターと公民館を一緒にしてコミュニティセンターと名称変更していくということでは進めているかと思えます。運営形態は別にしても名称が変わってくるということは、公民館はなくなるため公民館長はなくなるわけですが、館長と主事で組織している公民館連絡協議会という各公民館の連携を図る場合があります。公民館はどんどんなくなっていくから、公民館という名前は使いにくい。私が提案したいのは、だれが主体になっていくのか、市全体としてはだれがするのかというのを位置づけするために、安易ではありますが生涯学習委員というように、市全体で統一的な名称を考えていただきたいのですが、どうでしょうか。

事務局 地区公民館のコミュニティセンター化ということで、社会教育法を適用した公民館は5館残し、それ以外はコミュニティセンター化という流れがございます。今年度より徳和がコミュニティセンターとなっておりますので公民館としては45館ですが、公民館連絡協議会という名で地域の生涯学習活動の連携を

しております。名称の提案をいただいたところですが、今後生涯学習の形が変わってきます。あるタイミングで、5館を残しコミュニティセンター化という話もあり、社会教育委員会で今後の在り方をご協議いただきたいと考えております。来年、再来年あたりで提案させていただければと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

委員 最近、線状降水帯という言葉がよく出てきますが、例えば嬉野では4つある小学校のうち3つが川沿いです。特別な防災対策や例年にない特別な対策があれば教えていただきたいです。

事務局 今のところそういう特別なところの対応等はありません。ただ、6月にあった台風の前の大雨の時は、学校に下校時間を確保や地域への連絡をするよう連絡をしました。委員がおっしゃっていただいた線状降水帯についての決まった対応はありませんが、登下校の間や学校にいる間についてはその都度連絡をするというようになっています。東西に長い校区を持っていますので、市の防災対策課と連携を取りながら、対応をしていくというようになっております。マニュアルのようなものは今のところございません。

委員 三雲中学校のグラウンドは、水はけがとても悪く雨上がりに使えません。何とか市の予算を考えていただいて、水はけがいいようにしてもらいたいです。

事務局 それぞれの学校で要望を出していただいて、また教育委員会として考えていきたいと思っております。

以上